

◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：ハチドリくらぶ
 代表者：代表 嶋田 照子
 URL :

1. 活動が必要とされた状況

昨年新聞紙上で、(H24)熊谷市の市民一人一日あたりごみ排出量(1,159g)が埼玉県一多いと報道された。従来からダンボールコンポストを活用した生ごみ減量に取り組んでいたため、市民団体でごみ減量を企画した。ダンボール方式は、他と比べて、安くて手軽で、土地が不要という利点がある。

2. 活動の内容(実施時期、参加人数、活動内容など)

今回は、講習会と交流会を組合せる形にした。

(1)ダンボールコンポスト講習会

平成26年10月23日から12月6日まで計4回講習会を開催し、合計で30人の参加があった。講師はハチドリくらぶメンバーが務め、ダンボールコンポストへの理解を深めた。

(2)生ごみ減量化について考える市民の交流会

平成27年1月24日(土)に上記の交流会を市立中央公民館で開催。内容としては、講習会の報告会と交流会の2つから構成されている。

報告会には、講習会参加者の11名が参加し、ダンボールコンポスト使用上での疑問や感想などが話題に出され、共に実践しているとの連帯感が感じられた。その後、一同で昼食をとった。調理は、ハチドリくらぶの清水洋子が担当し、有機野菜を使用した炊き込みご飯・煮物・サラダなどを全員で味わったが、この「同じ釜の飯を食う」という手法は非常に好評であり、且つ又効果的であった。



昼食会の様子

午後の交流会では、会場内にダンボールコンポストやパネル等を展示した。来賓として富岡熊谷市長と栗原熊谷市地球温暖化防止推進センター長から祝辞をいただいた。第Ⅰ部の〔報告〕では、4人(嶋田照子・白倉俊也・大前万寿美・川寄幹生)から自身の現在の活動状況について報告をいただいた。第Ⅱ部の〔質疑応答・意見交換〕では、質問に答えコンポストの使い方、他の方式との比較、悪臭問題等説明した。次の意見交換では、川寄氏から、ごみ処理施設の大規模化や効率化の必要性が提案されたが、熊谷市からは、地方都市では小規模分散型の方式も選択肢に入れるべきとの意見が出された。



交流会の様子

3. 活動の成果

今回のサイサンの助成事業では、過去の反省に立って、「講習会」だけでなくその成果を参加者と共有するための「交流会」の開催を通じて、ダンボールコンポストの効用及びその必要性を認識してもらうという、いわば「基礎固め」ができたと思う。

4. 今後に残された課題

ダンボールコンポストを普及させ定着させるには、単年度では不可能である。本当に生ごみの減量化の効果を得るには、1000人規模の参加者が必要であるため、指導員の育成とテキスト教材の作成、参加者の質問に即応するためにホームページの開設、ダンボールコンポストの材料(基材)確保などの課題がある。これらを一歩ずつ解決していきたい。